

学校における ICT 環境の整備

アナ： 『市長が語る 2021 三島』第10回の今日は、「学校における ICT 環境の整備」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願いします。

市長： よろしく申し上げます。

アナ： 学校の ICT 環境の整備については、三島市では早くから電子黒板やデジタル教科書を使った授業に取り組んできたそうですが、何か新しい取組みがあるのですか。

市長： はい。

国は現在、「GIGA スクール構想」の実現を目指しています。具体的に申し上げますと、小中学校の校内通信ネットワークを高速大容量化した上で、児童生徒一人一人にタブレット端末を配布し、授業等で活用を図っていくという取り組みです。

三島市においても、令和2年度中に子ども達に「iPad(アイパッド)」を配布し、この4月からは、授業等で活用していただいております。

また、三島市が導入したタブレット端末は、LTE という通信方式が利用できるため、スマートフォンのように、Wi-Fi に接続できない環境であってもインターネットに接続しての学習が可能です。

アナ： ほかの自治体よりも一層進んだ整備をおこなったのですね。

具体的には「iPad」をどのように学習に活用していくのでしょうか。

市長： 授業中の簡単なテストやアンケート等が、紙で配らずに iPad で可能となることをはじめ、子ども達全員の解答や意見を、先生が iPad を通して確認し、電子黒板に映して説明するなどの使い方が想定されます。それによって、普段あまり発言をしない子の意見を取り上げやすくなるほか、グループごとに同じ作業ファイルを共同編集し、成果について電子黒板を通してプレゼンするなど、iPad によって、様々な学びの可能性が広がります。

また、異なる学年や学校等、物理的な距離が離れたところにいる子ども達とも、オンラインを通じた交流ができるようになります。

さらに、自宅への持ち帰りが進んだ場合、自宅で宿題をし、その場で提出するといったことも可能となります。

アナ： GIGA スクール構想は、これまでの学校での学びを大きく変える可能性があります。ありそうですが、タブレット端末を利用した学習に向けて、先生方の準備なども必要となってきますね。

市長： その点につきまして、市ではタブレット端末の導入に先駆けて準備を進めてきました。

まず、タブレット端末を子ども達がスムーズに使えるよう、導入段階で先生方

への研修を手厚く実施したほか、先生方もこの GIGA スクール構想を契機に教育を変えようと自主的に研修に取り組んでくださっています。

また、ICT 機器を効果的に活用して学習を進めるとともに、先生方の負担を軽減するために、授業づくりや機器操作のサポート等をおこなう ICT 支援員を今年度から配置しています。

さらに、通信ネットワークの障害やタブレット端末の不具合等が起きた場合に備えてヘルプデスクを設置し、迅速なトラブル対応が可能な体制を整えております。

アナ： 子ども達にとっても、指導する先生方にとっても恵まれた環境が整っているのですね。最近では SNS の利用などにより子ども達が犯罪に巻き込まれる事件等が発生していますが、その点での対策はどうですか。

市長： タブレット端末を学習のために活用できるよう、有害サイトの閲覧制限やアプリケーションの制限を行っています。

ただ、一定の制限は必要ですが、重要なのは、子ども達に使い方を覚えてもらうだけでなく、情報モラルについて考えてもらうことだと考えています。

先生方からの指導はもちろんですが、ご家庭においても子ども達が正しくタブレット端末を使っていけるようご指導をお願いしたいと思います。

アナ： これまでのお話を伺い、いよいよ日本でも ICT 教育が本格化し、未来の授業が訪れる感じですね。豊岡市長は GIGA スクール構想にどのような期待を抱いていらっしゃいますか。

市長： これからの子ども達は、Society5.0 や SDGs といった新しい考え方の中、大きく変化する時代を生きていくことになります。

GIGA スクール構想を実現するための市の財政的な負担は少なくはありませんが、三島の子ども達への投資であり、将来の三島市の発展のための礎になると考えております。

小中学生の保護者の皆様はもちろん、市民の皆様にも、この「GIGA スクール構想」を応援していただきたいと思っております。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。